

平成29年度 第3回 第2期健康横浜21中間評価検討部会 議事録	
日 時	平成29年11月21日（水）19時～21時
開催場所	市庁舎5階 関係機関執務室
出席者	第2期健康横浜21中間評価検討部会委員 6名（資料1）
議題	<p>1 挨拶</p> <p>2 (1) 中間評価の検討経過と主な変更点 &lt;資料2・3&gt; 資料2・3について事務局より説明</p> <p>(2) 中間評価報告書（原案）について&lt;資料4・5&gt; 「市民意見募集実施結果について」 「重点取組方針について」 資料4・5について事務局より説明</p>
主な意見等	<p><b>【資料4】 市民意見募集結果について</b></p> <p>（国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長） 意見募集結果の反映内容について、ご質問・ご意見いかがか。また、反映したほうがよい意見があるかどうか。まずは分野別から。</p> <p>市民の方からは、働き・子育て世代の重要性や、ウォーキングポイントの取組についてのご意見多い。運動は、稔りの世代は頑張っているが、働き・子育て世代は評価Cとなっている。こちらは重点取組方針へ反映となっている。朝食抜きについては、重点取組方針には反映しないということか？</p> <p>（事務局） 現時点では反映していないが、後ほど重点取組方針の方でも深めていきたい。朝食についての言及は多い。</p> <p>（神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員） 朝食のキャンペーンについてのご意見があるが。</p> <p>（事務局） 第2期食育計画のひとつとして朝食キャンペーンをやっている。食育推進フォーラムのメンバー、ガストロノミ協議会と一緒に、市内有名レストランにご協力いただいて、いつもは食べられない朝食を提供して朝食の機運を盛り上げようというものをやっているが、それに関してのご意見。食育計画の中でも考えていくことだが、後ほど重点取組方針の方でもご意見いただきたい。</p> <p>（国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長） 休養・こころは重点取組方針へ反映するという案になっている。市民の皆</p>

さんからは、取組としてまだ足りないというご意見多い。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

睡眠の指標以外に、ストレスに関する数字があれば良いと思うが、どういったものがあるか？

(事務局)

休養・こころは指標としては睡眠だけであり、弱い部分だと思う。こういったものをモニタリングしたほうが良い等ご意見いかがか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

労働者健康状況調査では、仕事でストレスを感じるか、家庭でストレスを感じるか、調査しているものがある。調査は5年ごとにやっている。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

働いている約5割の人は仕事にストレスを抱えていると調査で出ている。仕事上のストレスは調査しているが、家庭でのストレスの調査まであったかどうか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

もしあれば、全国で実施しているはずなので比べられると思う。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

睡眠不足は長時間労働に起因する部分がある。

(事務局)

労働環境に寄った時、どのような取組ができるか。後ほど考えたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

健診、がん検診についてはいかがか。がん検診の受診率がこれだけ上がった理由は？がん検診に対し、特定健診は上がっていないのはなぜか。

(事務局)

横浜市では基本健康診査の時代からそのまま低くきている。仙台市等の他都市では、昔からの習慣があり、現在も高い。がん検診は国の施策でも力を入れており、個別勧奨通知、クーポン、再勧奨、協会けんぽ・家族の方、国保の方にも案内を入れたり、ダイレクトに伝わるようにしている。また、芸能人ががんになるとマスコミが報道したりして一気に受診率高くなる。通知は対象年齢の人すべてに送っている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)  
国、市、マスコミ等が三位一体でやってきたということか。  
では、喫煙はいかがか。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)  
歩きタバコが増えている。何とかしてほしいとのご意見も多い。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)  
学校の通学路、スクールゾーン等で、この時間はタバコを吸っていけない  
等取り組んではどうか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)  
病院から出た所でいっぱい吸っているとのご意見もある。これが実態かと。

(横浜市医師会 渡辺会長)  
加熱式タバコは良いのではという風潮がある。CMでおしゃれとってしま  
って、若い人減らないのでは。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)  
加熱式タバコについても一言あっても良いかもしれない。話題でもある。  
次に、それぞれの世代別ではいかがか。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)  
地域とのつながりについてのご意見が多い。特に男性の。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)  
つながりについては重点取組でも取り上げている。  
では、全体のご意見も踏まえていかがか。

(横浜市医師会 渡辺会長)  
受動喫煙というが、なかなか達成しない。タバコを吸うと悪性腫瘍や糖尿  
病だとかこんな害があるという認識を上げたら、もう少しタバコをやめよう  
かなと思うのでは。結局、タバコを吸う人が多いので受動喫煙が止まらない。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)  
COPDも、もっと知ってもらいたい。重要な病気であるが認知度がまだ  
まだ。

(事務局)

子どもと同居している親の喫煙率が落ちない。望まないタバコの害を受けないことは盛り込んでいきたい。また、禁煙したくてもやめられない人を相談につなげたり、何とかしたい。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

これは健康計画なので、育ち・学びの世代を重点に置いて、健康観を高めていくことが必要。子どもの受動喫煙を防ぐ、害を与えない、薬物依存にさせないことが大事。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

喫煙者を減らさないと受動喫煙も減らないということで、改めてがんや糖尿病等、喫煙の害をPRしてはどうかと。育ち・学びの世代を重点に置いたり、こころの健康に踏み込んでいく。このようなところを反映させて計画を作成していく。

#### **【資料5】中間評価報告書（原案）について**

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

8ページからの流れがよこはま保健医療プランと変わらない。医療計画と重なっている気がするので、福祉保健センターでやっている健康活動を入れていくのはどうか。当初この計画を考える時、特定健診をどう受診勧奨するかだけでなく、健康計画なので、こどもの時からの教育が大切であるよう、育ち・学び等のライフステージごとに考えるようにした。市内の活動、子育て関連のセンターの活動実態、教育委員会の学校保健委員会の活動等もどうか。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

もう少し情報を入れていくということか。本文に書きこんでいくか。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

6～8ページに疾病の状況だけでなく、横浜市でやっている活動、地域ケアプラザの自主事業の実施・参加状況、認知症カフェ等入れてはどうか。

(事務局)

市民のサービスがどう活用されているか、活用しているか等書けたら良いか。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

8ページ、女性は骨折や転倒で介護になっている者が多い。女性の健康寿

命が延びなかったのも、ここでの何か対策が必要なことを強調しても良いのでは。

21ページの運動は順調と書いてあるが、資料3では、運動はすべて評価Cになっており、違う結果になっているが。

(事務局)

運動について若者は課題で、高齢者は運動している結果になっているのだが、資料3の数値変化については見直して修正したい。

(横浜市医師会 渡辺会長)

若い時運動している人・していない人では、年をとってから骨粗鬆症の有意差がある。若い世代が運動しにくくなっているので、ここを改善すれば高齢になってから骨折や転倒がなくなる。年をとってから運動するのではなく、若い世代から運動するような機会を作ると良い。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

市民の意見では、「評価より歩いているように思うが…」というものも高齢者からあった。やはり、若い人より高齢の方は歩いているように思う。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

若い女性は痩せの問題等もあるので、8ページ成人期からの運動・栄養が必要と書くのか、稔りの世代に書き込むよりは19ページの運動のところに書くか。8ページの説明文に今の意見を書いておくとわかりやすいか。

(神奈川産業保健総合支援センター 渡辺委員)

表と離れていると分かりにくいので、8ページで良いと思う。

(事務局)

今のご意見8ページに書き込むが、数値変化については精査したい。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

意見の中に、もう少し優しい言葉遣いで・・・とある。そのまま出して、市民が果たして見てくれるかどうか。

(事務局)

専門用語が入っている。読みにくいのは確かなので、コラムを付け足す等考えたい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

難しいものには解説をつけるとか。もし概要版を市民向けに作成するのであれば、入れていただくといい。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

8 ページに、男女、要支援と要介護等の言葉は出てくるが、健康そのものは「家族」も大事なキーワードとなる。家族構成のアンケート等入れても良いのでは。

(事務局)

調査でも、単身世帯より3世代世帯のほうが主観的健康観が高かったりもする。そういった傾向が出ている。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

世代を超えたもの、ソーシャルキャピタル、地域でのつながり、家族関係、地域まるごと等、つながりを作ることや、どこで出来るかがプラスアルファされていくと、より健康的な意識となるか。地域ケアプラザだとか地区センター、保育園等、そこでつながりが出来るとなお良い。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

6 ページ、がんの部位別死亡数だけでなく男女別グラフも入れてはどうか。また、10ページのソーシャルキャピタルについては、地域とつながりをもつ等記載あるが、若い人は今、怖くてつながりが持てないと。地域によって色んな課題があると思うので、希薄化が課題だ、だけでなく、原因含めて考える等もうひとつアクションが考えられるといい。また、がん検診受診率が上がったのは、個別通知、情報提供が良かった等、理由を書き込めると良い。それから、子ども子育てに関する県の表彰があるが、横浜の取組が多い。それは、ケアプラザ等、活動の拠点があること。場があるのは横浜最大の強みなので、書き込んでPRしてはどうか。

(事務局)

ソーシャルキャピタル等の結果はつい個人のアンケートに寄りがちだが、こういった活動が増えた等、加えていけるといいか。ウォーキングポイントに参加している人はつながりが増えたという結果も出ている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

そういったことをコラムに入れる等して、ポジティブなところが表現されるといい。

(事務局)

その他、歯や食についてあまりご意見なかったが、いかがか。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

虫歯は良くなっているが、子どもの口腔機能の低下が課題。口呼吸は睡眠時無呼吸症候群のハイリスクである。また、体幹が弱くなって起こる子どもロコモ等も。疾病構造が変わってきて、歯科の課題も新たに変わってきている。20代の歯周炎、40代の歯の喪失等は良くなってきていない。指標について、次の5年間の目標を考えることも必要。やはり育ち・学びの世代が大事で、子どもの時から歯科について取組があると、大人になっても習慣化する。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

16ページに、歯科は改善していますだけでなく、歯周病、口腔機能の低下等、新たな課題が出てきましたと追記が必要。

(事務局)

19ページ歯・口腔の判定はペンディングにしているが、基準が変更となった背景には、歯周病が増えているとの意見もある。その辺り書き加えておきたい。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

20代の歯周病も増えてきていることも必要。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

栄養についてはいかがか。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

女性の痩せが気になる。「バランス良く食べる」は女性で改善となっているが、欠食や全体エネルギーが少ないと、骨粗鬆症につながる。高齢者になってからではなく、若い時から始まっていると追記があるといいと思う。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

重点取組についてはいかがか。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

健康教育を特に強化、継続して行う。間違った健康情報を整理して、医師会、栄養士会等と連携して正しい情報を伝えていく必要がある。また、横浜市民の8～9割は歯周病で、そのうちの20%程度は進行した歯周病があり、糖尿病、心筋梗塞、脳梗塞等のハイリスクとなる。非アルコール性肝炎も歯周病と関連があり、口腔内の常在菌が悪さをしていると。一方で、歯周病の

治療を過去1年間で受けたことがあるという人は24%しかおらず、歯周疾患健診の受診率が低い状況なので、生活習慣病対策のところに歯周疾患健診も入れてもらえるといい。また、稔りの世代のところに、低栄養に対する対応、フレイル対策を入れてはどうか。

(神奈川県産業保健総合支援センター 渡辺委員)

運動の目標は歩数や運動となっているが、日常生活の中でいかに活動が多いかも重要。なるべく座っている時間を少なくする等入れてもらえたら。動いていれば歩数も増える。運動する時間がとれない人は通勤時間を利用して階段を使う等工夫できる。書き加える場所は運動か生活習慣病のところか。

(横浜市医師会 渡辺会長)

医師会は歯科医師会と10月に協定を結び、来年4月から糖尿病の患者は歯科も必ず見てもらい、重症化予防を進めていく。青葉区や泉区ではすでに行われている。目や腎臓だけでなく、歯周病もみてもらうことを始める。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

この情報はぜひコラムへ。

(神奈川県栄養士会 長谷川委員)

栄養士会も薬剤師会と覚書を結んで、健康サポート薬局へ栄養士会から派遣することを始める。

(事務局)

行政の役割だけでなく、関係機関も連携してやっていることを24ページのところに書き込んでいく。

(横浜市歯科医師会 堀元委員)

地域保健連携も重要。栄養士会とも様々協力することが始まってきている。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

休養・こころは課題であるが、関係機関連携で対策いかがか。

(横浜市薬剤師会 高堂委員)

自殺対策、依存症も関係あるので、どこかに入れてはどうか。子どものスマホ依存だけでなく。

(事務局)

関係部署とも調整して書いていきたい。



(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

23ページの働き・子育て世代の「インセンティブの提供～」は一般の人は意味がよく分からないかもしれない。また、「組織に所属していない」という言い方は傷つけてしまうのでは。「お勤めでない人」の表現のほうが良いか。受動喫煙については、対策だけでなく、喫煙率を減らすも入れたほうが良いのでは。健康教育についてはどこにでも入ってくるため、正しい情報を提供する等入ると良いか。フレイル、目標には入ってきていないが、もし入れるとしたらどこなのか、コラムなのか、検討が必要。

(事務局)

フレイルは、横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画や保健医療プランに言葉が入っている。新しい概念なので触れないわけにはいかないと思っているが、書き方は調整したい。

(国際医療福祉大学保健医療学部 荒木田副会長)

フレイルの概念は幅広いので、使い勝手が良い。食・運動は若い時から、とうまくつなげられる。

他に特にご意見なければ、ここで議論を終了としたい。

(横浜市医師会 渡辺会長)

すべての議事終了したため、ここで終了とする。

10月に14大都市医師会連絡協議会が開催されたが、横浜市は注目されていた。イニシアティブを発揮できるようやっていきたい。

(事務局)

今回で中間評価検討部会は最後となる。健康計画としていくために、わかりやすい言葉で市民に伝えられる計画にしたい。今後は、本日の意見等を踏まえ、原案を修正し、庁内で議論を深め1月頃には確定させていく。年度末に開催予定の第2期健康横浜21推進会議を経て、報告書を公表資料として取りまとめていく。具体的な取組を、皆様と検討し進めていきたい。